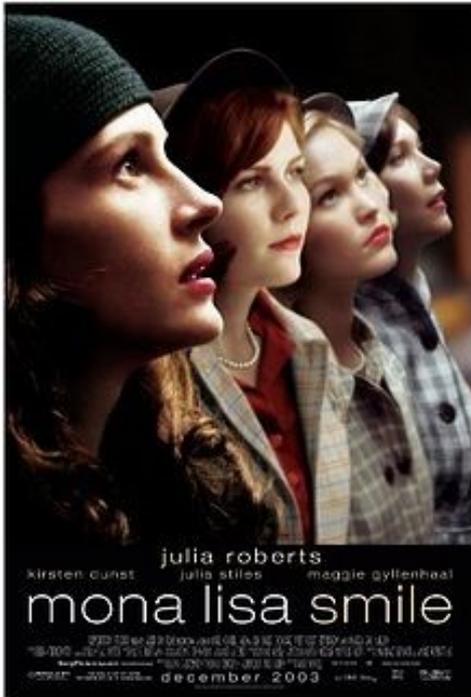


『モナリザ・スマイル』 原題 MONALISA SMILE 2003



© 2003 Sony Pictures Entertainment. Co

映画批評

『モナリザ・スマイル』 原題: MONALISA SMILE 2003

～1950年代の教師と学生たちとの交流を描く

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

© 2004 m.tsukada

『モナリザ・スマイル』(*Mona Lisa Smile*)は、マサチューセッツ州に実在する1870年に創立された名門女子大学ウェルズリー校 (Wellesley Univ.)を舞台にして、1950年代の教師と学生たちとの交流を描いた映画である。

1953年、名門女子大に助教授として就任したキャサリンは、54-55年度の「美術史100」の講座を通して、伝統を重視する保守的な環境の中で“自分の頭で考えることが大切だ”と教えようとする。就任当初は、男性からのプロポーズこそが女性の幸せだと信じる女子大生たちから手強い反発を受ける。大学理事会からも露骨に非難されるが、キャサリンは挫折しない。工夫をこらした美術史の授業をとおして、学生たちとコミュニケーションを図る。

<STORY>



↑ はるばる遠路を列車に乗って、名門女子大学ウェルズリー校の最寄りのウェルズリー駅に着いたキャサリン

現在は社会で活躍する女性を多く送り出している女子大学だが、当時は午前中に夫の上司へのお茶の出し方を学ばせるカリキュラムを開講し、女子学生たちが在学中に将来の夫を見つけて良き妻となるという良妻賢母型を目指す伝統的な価値観に固執する大学であった。



↑ 礼儀作法や良妻賢母の理念を教える家庭科の先生

そこへ自由で牧歌的な気風で自分の信念に従って行動する美しい女性教師キャサリンが着任した。キャサリンは就任早々に皆の興味の的となり、イタリア語教師のビルはキャサリンに「モナ・リザ」とニックネームをつけた。

最初の授業では、全校きつての優等生たちの完璧な教科書の予習攻めにあつて、キャサリンは唖然として立ちすくむ。54-55 年度「美術史 100」の講座は、スタントン博士のシラバスでは学生たちにとっても太刀打ちできないと思ったキャサリンであった。教授からはシラバスに従うようにと言われるが、頭脳明晰な学生たちの中には早くも時代の新波に乗りたがる学生もいる。地域の名門家が娘に託す希望の結婚と学術知識を提供する場としての大学で、キャサリンは教師としてどうあるべきかに悩むのであった。そして、彼女は即座に、伝統を重視する保守的な環境の中でも、“自分の頭で考えることが大切だ”、と教えようとする。男性からのプロポーズこそが女性の幸せだと信じる学生たちから手強い反発を受け、大学理事会からも露骨に非難されるが、カール学長の信頼を受けてキャサリンは前へと進む。

ゴッホの《ひまわり》を見せて、塗り絵で創作させる。そして、コピーか、それともオリジナルか。どちらが重要かを考えさせる。キャサリンはジャクソン・ポロックの代表作《Lavender Mist No.1》(※現在はワシントン・ナショナル・ギャラリーで所蔵)を、作品が到着したばかりの倉庫で見させて学生たちに云う。

“Do me a favor. Do yourselves a favor. Stop talking and look. You're not required to write a paper. You're not even required to like it. You're required to consider it.” 「お願いだからおしゃべりを止めて、あなたたちのためよ。レポートを書かなくても、この絵を好きにならなくてもいいの。ただこの絵を見て熟考してね。」



↑ ジャクソン・ポロックの代表作《Lavender Mist No.1》を女子学生たちに鑑賞させるキャサリン

やがて迎えた卒業式。自ら選択することに目覚め、わが道へと進む女子学生たちに別れを惜しまれながら、キャサリン自身もまた新たな自分の道へと歩み始める。

映画セリフ

①

They have claws underneath their white gloves. 「みんな白手袋の下に爪を隠してるのよ」

Let me tell you something. Not everything is as it seems. 「ひとつ言わせて。見かけと中身はいつも一致しているとは限らないのよ」

* スクールナースの Amanda が Katherin へ警告している

②

Do me a favor. Do yourselves a favor. Stop talking and look. You're not required to write a paper. You're not even required to like it. You're required...to consider it. 「お願いだからおしゃべりを止めて、あなたたちのためよ。レポートを書いたり、この絵を好きにならなくてもいいのよ。ただこの絵を見てじっくり考えてね。」

* フィールド・トリップで、ジャクソン・ポロックの絵を見て、Katherine が学生たちに云う。

③

JOAN: Sunflowers. Vincent van Gogh. Eighteen eighty-eight. 「ひまわり。ゴッホ。1888年制作」

KATHERINE: He painted what he felt, not what he saw. 「ゴッホは感じたものを描いた、見た物を描いたのではなく。」

* ゴッホの〈ひまわり〉を見せて、Katherine が学生たちに説明する。

【映画史リテラシー】

●言語：英語、仏語

東部米語：言語運用として、上品な英語でのやりとり、教師と学生や母と娘との人間関係の確執や欺瞞に対する知的に洗練された言葉の応酬、比喩や暗示、婉曲的な表現、ストレートな辛らつさ、ユーモア、傲慢な表現などが散出している。

●【登場人物】

カリフォルニアから着任した美術教師キャサリン：Katherine Ann Watson（ジュリア・ロバーツ）

名門の両親を持ち優等生で在学中に結婚したベティ：Betty Warren（キルスティン・ダンスト）

法科進学のおすすめを拒まず伴侶を選んだジョーン：Joan Brandwyn（ジュリア・スタイルス）

聡明だが奔放な恋を求めるジゼル：Giselle Levy（マギー・ギレンホール）

チェロ演奏が得意で初恋を成就させたコニー：Connie Baker（ジニファー・グッドウィン）

イタリア語教師のビル：Bill Dunbar（ドミニク・ウェスト）

スクールナースのアマンダ：Amanda Armstrong（ジュリエット・スティーヴンソン）

良妻賢母になるためのマナーを教えるナンシー：Nancy Abbey（マーシャ・ゲイ・ハーデン）

キャサリンの元婚約者ポール: Paul Moore (ジョン・スラッテリー)

●場所

マサチューセッツ州、 ウェルズリー女子大学、 NY

●1950年代であること、実在する名門女子大学の当時の状況であることを認識しておけば、どの場面も映像・英語の両面で教材として適切である。現在の大学事情と比較すると興味深い。揶揄が分かり易い。

●© 2003 Sony Pictures Entertainment. Co

●販売元: ソニー・ピクチャーズエンタテインメント DVD 発売日: 2004/12/22 時間: 119 分
発売元 スクリーンプレイ 名作映画完全セリフ集: モナリザ・スマイル

[映画情報]

監督 マイク・ニューウェル (※『フォー・ウェディング』原題: Four Weddings and a Funeral. 1994年製作、英国の監督)

脚本 ローレンス・コナー、マーク・ローゼンタール

製作 エレイン・ゴールドスミス＝トーマス、デボラ・シンラー、ポール・シッフ

製作総指揮 ジョー・ロス

出演者

Katherine Ann Watson (ジュリア・ロバーツ)

Betty Warren (キルスティン・ダンスト)

Joan Brandwyn (ジュリア・スタイルス)

Giselle Levy (マギー・ギレンホール)

Connie Baker (ジニファー・グッドウィン)

Bill Dunbar (ドミニク・ウエスト)

Amanda Armstrong (ジュリエット・スティーヴンソン)

Nancy Abbey (マーシャ・ゲイ・ハーデン)

Paul Moore (ジョン・スラッテリー)

公開 2003年12月19日、2004年8月7日

製作国 アメリカ合衆国 言語 英語

配給 コロンビア映画 UIP